

新元号「令和」と新しい時代精神

2019年4月1日

りそな銀行 アセットマネジメント部
チーフ・マーケット・ストラテジスト 黒瀬浩一

新しい元号が「令和」と決定された。「令和」について安倍総理は記者会見で、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ意味が込められている」と述べた。元号には様々な条件があるが、1979年の閣議報告で、その第一の条件は「国民の理想としてふさわしい良い意味を持つ」とされている。この第一の条件は、これまで広く国民の間で知られていたとは言い難いだろうが、今回の改元を機に、人口に膾炙する可能性はあるだろう。

元号には存在そのものに対する批判もある。たとえば3月21日の朝日新聞の社説「改元」を考える時はだれのものなのか（注1）」は、時を示す元号が「統治の道具」だと批判する。各種の世論調査でも、反対とは言えなくも、西暦と元号では西暦を優先する人が若者を中心に増加傾向にあるのは事実だ。

とは言えファシズムや全体主義の時代ならともかく、憲法で象徴天皇と国民主権が明文化された今の時代であればこそ、元号に新たな意義を見出すことは可能だろう。第一の条件として「国民の理想としてふさわしい良い意味を持つ」ことを、素直に受け止めて良いのではないか。

筆者は3月13日付けで同シリーズのレポートで「新元号の時代に向け日本企業の課題は悲観主義の打破（注2）」を書いた。骨子は、企業向けアンケート調査や実際の企業の設備投資行動を見る限り、企業部門には日本の将来について悲観主義としか表現のしようのない諦め感があることを指摘した。

証券業界には、新改元が経済を刺激する効果に期待する声はある。ただ実際には、平成31年や令和元年と記された記念品やレアもののコレクション、システム改修や印刷物、など好影響はごく一部に限られるだろう。しかし、元号の存在、そしてそこに込められた「国民の理想としてふさわしい良い意味を持つ」事実は、もし外国に広く知れ渡れば、歴史に培われた知恵に驚愕するのではないか。国旗や国歌や憲法が総論とすれば、元号は時代情勢に合わせた各論と位置付けられるだろう。日本は世界でも稀な社会の分断が小さい国だが、多くの先進国では与党と野党、富裕層と貧困層、キリスト教徒やヒンズー教徒とイスラム教徒、など多くの面で分断が深刻化している。そういう国から日本への旅行者にしてみれば、日本旅行が単なる外国旅行ではなく、「令和時代の日本への旅行」、「日本で体験した令和」など特別な意味合いを持つはずだ。

実は既に日本では「文化経済戦略（注3）」が決定され、内閣官房には「文化経済戦略特別チーム」が設置され、クールジャパン戦略など文化を通じて日本をブランド化する方向性が示されている。ブランドにはコンセプトが必要だが、その一端を新元号「令和」が自ずと担うと見做されることになるのではないか。改元を機に時代精神が一新され、それがインバウンドを通じて日本ブランドの向上や日本企業の競争力向上に寄与し、企業経営者の悲観主義に風穴が開くことを期待したい。

（注1）https://www.asahi.com/articles/DA3S13942702.html?iref=pc_ss_date

（注2）<https://www.resonabank.co.jp/nenkin/info/economist/pdf/190313.pdf>

（注3）

http://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/_icsFiles/afieldfile/2017/12/27/a1399986_02.pdf

以上

- ・本資料は、お客様への情報提供を目的としたものであり、特定のお取引の勧誘を目的としたものではありません。
- ・本資料は、作成時点において信頼できるとされる各種データ等に基づいて作成されていますが、弊社はその正確性または完全性を保証するものではありません。
- ・また、本資料に記載された情報、意見および予想等は、弊社が本資料を作成した時点の判断を反映しており、今後の金融情勢、社会情勢等の変化により、予告なしに内容が変更されることがありますのであらかじめご了承下さい。
- ・本資料に関わる一切の権利はりそな銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを固くお断りします。